

北九州市の地域リハビリテーション 支援体制について

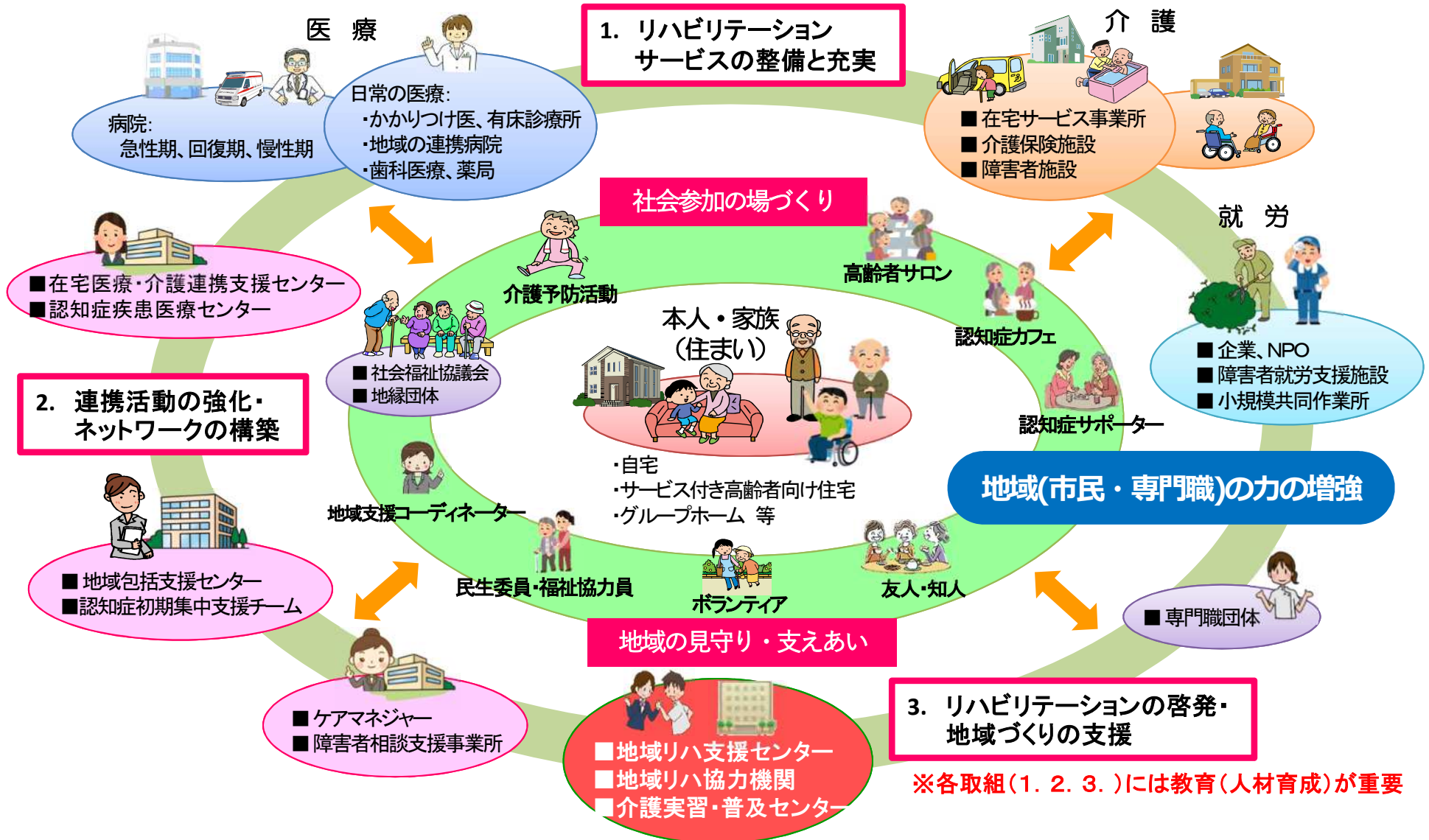


2024年1月27日
北九州市保健福祉局
地域リハビリテーション推進課
課長 宮永 敬市

北九州市の地域包括ケアシステムを支える 地域リハビリテーション推進イメージ

〔本人・家族を中心とした重層的な支援の輪〕

- 地域の中での見守り・支えあいのつながりや社会参加、居場所（地域の輪）
- 地域への働きかけができる専門職人材の育成や関係者間のネットワーク（専門職の輪）



※各取組(1. 2. 3.)には教育(人材育成)が重要

地域リハビリテーションの推進にむけた3つの取組

1 リハビリテーションサービスの整備と充実

- 「地域リハビリテーション支援センター」を設置し、地域包括支援センターやケアマネジャーなどの介護従事者を対象に相談支援を行います。
- 市内の医療機関等の協力を得て、リハビリテーション専門職を派遣する体制(地域リハビリテーション協力機関)の充実を図ります。
- 在宅生活を支える専門相談支援拠点として介護実習・普及センターの機能を強化し、介護技術をはじめ福祉用具や介護ロボット、住環境等を含めた生活全般の相談支援を行います。

2 連携活動の強化・ネットワークの構築

- 市内5つのリハビリテーション連絡協議会を運営し、地域の実情に応じたリハビリテーション関係者の連携強化に取り組めます。
- 事例を通じて多職種間の連携の仕方や支援方法を学ぶ研修会を開催し、関係者間のネットワークづくりを進めるとともに、在宅生活の支援ができる人材育成に取り組めます。

3 リハビリテーションの啓発・地域づくりの支援

- リハビリテーション専門職が高齢者サロン等の地域活動の場に出向き、介護予防や健康づくりについて市民に具体的な方法を助言・提案します。
- 市民が介護を身近なものとして考えていけるよう、地域の市民センター等において車いすなどの福祉用具の体験講座や自助具等の普及・啓発を行います。

北九州市の地域リハビリテーション支援体制

行政

《所管課》

保健福祉局 地域リハビリテーション推進課

- 支援体制の整備
- 関係機関の調整
- 地域リハビリテーション推進会議の運営

【地域リハビリテーション推進会議】

地域リハに関わる専門職、関係機関、行政等が集まり、本市の地域リハビリテーション推進に向けて地域の現状や連携上の課題等を把握し、支援のあり方や対応策等について検討を行う。

[構成員：医療機関、医師会等の職能団体、地域福祉活動団体、大学等]

委託

「地域リハビリテーション支援センター」

R3年4月設置、市内2カ所

東部：小倉リハビリテーション病院
西部：戸畑リハビリテーション病院

- リハに関する相談支援
- リハ関係者の人材育成・活用
- リハ関係者のネットワークづくり
- 地域における介護予防の取組みの充実
- 地域リハに関する情報の集約・発信
- 地域リハビリテーション協力機関への支援

運営

連携会議

出席

連携

協力

派遣調整

登録

申請

「地域リハビリテーション協力機関」 40機関(令和6年1月現在)

医療機関

高齢者・障害者施設
介護サービス・障害福祉サービス事業所等

- リハ専門職の派遣協力
- 地域リハビリテーション支援センター主催会議への出席

人材育成

派遣

派遣

ケア個別会議への参画・地域活動への支援

地域ケア個別会議への参画(地域包括支援センター主催)

住民運営の通いの場への支援

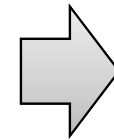
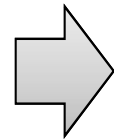
ケアマネジャーや介護サービス事業所等の従事者への助言等

研修会等への運営協力

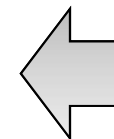
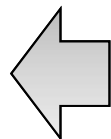
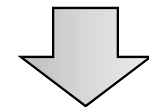
リハ関係者のネットワークづくりへの参画

地域リハビリテーションケース会議

- 平成15年度から開催
- 事例を通じて、どのような機関が何をどうしてきたのか、どこに課題があり、介入によりどのように変化したのかなどを紹介し、支援内容や援助方針、サービスのあり方を学ぶとともに、知識を整理できるようミニ講座による情報提供を実施。



コーディネーター：橋元 隆先生(九州栄養福祉大学理学療法学科 教授)
総括：浜村 明德先生(小倉リハビリテーション病院名誉院長)



区リハビリテーション連絡協議会

- 平成9年度から取組開始
- 保健・医療・福祉に従事する関係者が施設や職種を超えて(横断的に)情報の共有や技術の向上を図る事を目的に区単位での協議会を開催

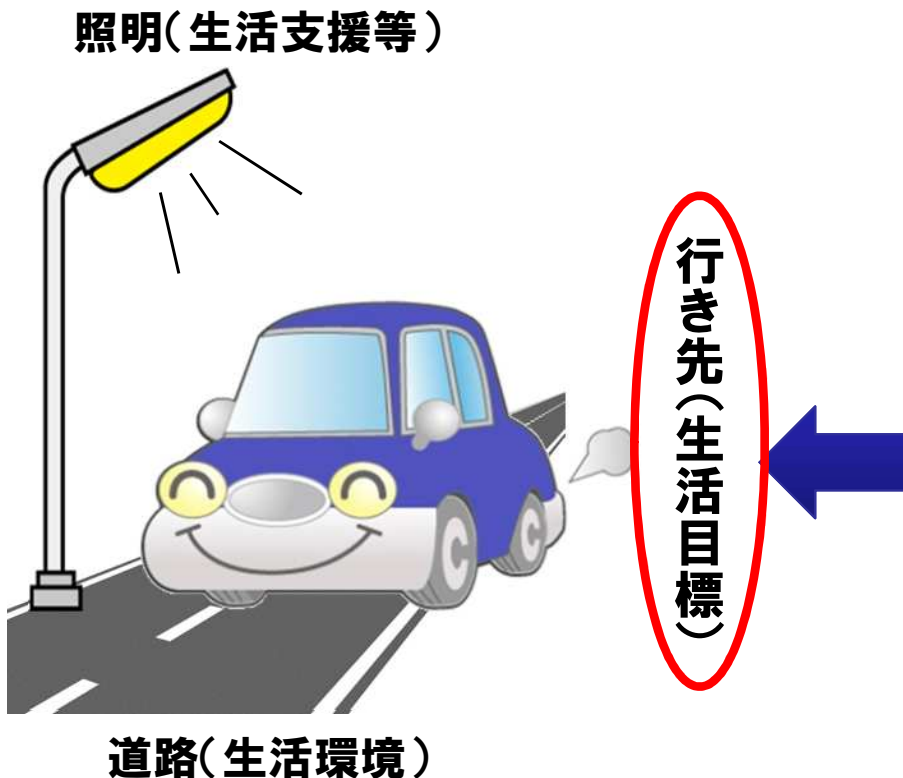


〔協議会での取り組み例〕

- 社会資源情報の共有
- 事例検討会の開催
- 勉強会の開催
- 職種間交流会の開催
- リハビリ相談マップの作成
- 保健福祉事業への協力
- リハビリテーションに関する市民啓発 等

総合的なリハビリテーションアプローチ(私見)

- 長年走ってきて傷んだ車が走るためには、エンジンや足回りのメンテナンスだけでなく、エンジンをかけるためのバッテリー充電(意欲)や燃料、行き先(生活目標)が必要。
- 行き先(生活目標)に向けて車が走る段階では、道路が整備(生活環境)され、暗い所は照明が整備(生活支援等)されていることも重要。これらが**総合的に実施されることで、目的地に到着することが可能**となる。



※長く走り続けられるよう、急加速や急ハンドルを行わず、安全に(生活行為の継続)走り続けることがポイント

